

平成28年10月26日

(仮称)石巻市複合文化施設基本設計業務公募型プロポーザルの選定結果について

1 はじめに

石巻市は、東日本大震災で使用不能になったため解体した石巻市民会館と石巻文化センターの再建について検討を進めてまいりました。市民会館は市内唯一の大ホール（1362席）、文化センターは文化遺産・歴史資料・美術品等の展示を行う博物館機能と小ホール（430席）を持ち、市民の文化芸術活動の拠点としての役割を担ってきました。

これまでの検討の結果、同一建物にした場合、建設費・維持管理費の抑制と利活用に関し相乗効果が期待できることから、両施設の機能を併せ持つ複合文化施設を建設することとし、平成26年6月に整備基本構想、本年3月に整備基本計画を策定しました。

(仮称)石巻市複合文化施設は、大・小ホール、博物館、生涯学習などの複合的な機能を有し、市民の文化芸術活動や多彩な交流活動を通じ、石巻の新たなシンボルとして文化の発信と地域の活性化に貢献できる施設を目指しております。

本施設の基本計画及び設計に当たっては、より優れた設計者を選定するとともにその選定方法の公平性、透明性を図るため、公募型プロポーザル方式により建築計画に対する設計者の柔軟かつ高度な発想力、設計能力及び豊富な経験を求め、この業務に最も適した設計業務委託候補者（以下「設計候補者」という。）を選定することとしました。

2 選定経過及び結果

本プロポーザルでは、最優秀者と優秀者（次点）を選定することとしました。

評価に当たっては、客観的かつ公平・公正な選定を行うため、専門知識を有する学識経験者等からなる「(仮称)石巻市複合文化施設基本設計業務プロポーザル選定委員会」（以下「選定委員会」という。）を設置し、二段階による評価を行いました。

(1)選定委員会の設置（平成28年5月10日）

選定委員会委員は、下記のとおりです。

| 氏名      | 所属等               | 備考    |
|---------|-------------------|-------|
| 本 杉 省 三 | 日本大学理工学部 特任教授     | 選定委員長 |
| 小野田 泰 明 | 東北大学 大学院教授        | 職務代理  |
| 有 川 幾 夫 | 宮城県美術館 館長         |       |
| 大 石 時 雄 | いわき芸術文化交流館アリオス支配人 |       |
| 藤 沼 邦 彦 | 元弘前大学 教授          |       |
| 西 條 允 敏 | 石巻市文化協会 会長        |       |
| 境 直 彦   | 石巻市教育委員会 教育長      |       |

## (2)評価の経過

### ①第1回選定委員会（平成28年5月28日）

市長より委嘱状の交付の後、事業及び基本計画、実施要領（案）等の説明を事務局より行い、その後委員長に本杉省三氏、職務代理に小野田泰明氏を選任しました。

その後、実施要領等について協議しました。この協議の中で、基本計画はこれまでの計画内容を取りまとめたものとしてプロポーザル実施に当たっての基礎資料となるが、部分的に整合が取れていない箇所もあり、設計者選定後実際の設計に当たっては、これにとらわれずより良い方向性で検討していくことが望ましいことが確認されました。

### ②第2回選定委員会（平成28年6月24日）

引き続き、実施要領等の協議を行いました。

### ③実施要領の公告（平成28年7月15日）

（仮称）石巻市複合文化施設基本設計業務プロポーザル実施要領（以下「実施要領」という。）を公告いたしました。

### ④第3回選定委員会（平成28年9月24日）

一次選定を行いました。

はじめに参加資格及び実施要領等の規定に違反する行為等の確認を行い、続いて評価の進め方について協議しました。選定に当たっては、できるだけ協議によるものとし、投票においても数の多さだけで順位を決めないこと、ヒアリング対象者5者に絞られるまでは提案者名が分からない方法により行うこととしました。

評価については、以下のような手順で行いました。はじめに、委員全員が時間を掛けて静かに技術提案書を見る時間を取り、その後、それら全ての技術提案書について、委員全員で一点ずつその内容の特徴と優れた点、並びに弱点と思われる課題点を確認しました。課題点については、それが案を具体化・発展させて行く上で根本的に見直さなければならぬ問題なのか、骨格に影響が少ない修正で解決できそうな問題なのかも議論しました。その後、持ち票を決め委員が評価する提案を推薦し、全員で協議しながら提案を9点まで絞り込みました。

そこで、改めて9点の提案書を個人個人で見る時間を取った後、再度一つ一つの提案について全員でレビューしました。そして、再び前の段階と同様にして注意深く投票と議論を重ねて検討した結果、二次審査への参加資格者として、5者を選定するに至りました。

最後に、それら5者の提案に対して、是非この段階で質問しておきたい事柄や取り組み方針、考え方などをとりまとめ、競争的対話方式の指摘事項としました。

なお、本プロポーザルへの参加者等については、下記のとおりです。

| 参加表明書提出数 | 技術提案書提出数 | 二次審査への参加資格者数 |
|----------|----------|--------------|
| 28者      | 25者      | 5者           |

# ⑤競争的対話方式の実施

一次審査を踏まえて、二次審査参加資格者へ次のとおり指摘事項を通知し、参加資格者は指摘事項を踏まえた、二次審査用の資料を作成しました。

| 番号   | 指摘事項                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1402 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第3のホールの実用性を具体的に知りたい。</li> <li>② 大・小ホールの搬入が重なった場合の対処法はあるか。<br/>あるいは別案はあるか。</li> <li>③ 第3のホール、大ガラス窓は地震時に不安感を抱かせないか。</li> </ul>                                                                                     |
| 1405 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 大・小ホール及びミュージアムの搬入が重なった場合の対処法はあるか。あるいは別案はあるか。</li> <li>② 大・小ホールの共用楽屋の区切り方について、どのように考えているか。</li> <li>③ 展示室の搬入搬出の裏動線をどの様に考えるか。</li> </ul>                                                                           |
| 1413 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 駐車場の西側配置（住宅地側）に懸念はないか。</li> <li>② 建物中央スクエアの構造とハイサイドライトガラス窓は地震時に不安感を抱かせないか。</li> <li>③ 大ホール客席のサイドラインは大丈夫か。</li> <li>④ 大・小ホールの搬入が重なった場合の対処法はあるか。<br/>あるいは別案はあるか。</li> <li>⑤ 大・小ホール側壁開口は、コスト・遮音上どの程度有効か。</li> </ul> |
| 1422 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 屋根谷部の水処理についてどの様に考えているか。</li> <li>② 大ホール舞台開口が広すぎる。適切な間口とした場合も客席数は確保できるか。</li> <li>③ 天候に左右されず大・小ホールへの搬入作業が互いに干渉されず行える可能性はあるか。</li> <li>④ 構造の考え方を具体的に知りたい。</li> </ul>                                               |
| 1427 | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 市民ギャラリーの搬入を一般利用者動線と交差せず計画する可能性はあるか。</li> <li>② 大・小ホールの共用楽屋の区切り方について、どのように考えているか。</li> <li>③ 駐車場の利便性に懸念がある。</li> <li>④ 植栽のメンテナンスと概算コストについて具体的に知りたい。</li> </ul>                                                    |

# ⑥第4回選定委員会（平成28年10月16日）

5者に対して二次選定評価を行いました。

公開プレゼンテーション・ヒアリング方式で、技術提案書や競争的対話方式の指摘事項への対応を説明するとともに、選定委員による質疑を行いました。

公開プレゼンテーション・ヒアリング終了後、非公開で選定委員会を開催し、技術提案書やプレゼンテーション・ヒアリング、指摘事項への対応等を踏まえて、さまざまな観点から評価・選定を行い、最優秀者と優秀者（次点）を選定しました。

### (3)評価の結果

選定委員会の評価に基づき、次のとおり選定し、平成２８年１０月１６日に、委員全員で、市長に結果を報告しました。

|          |                                        |
|----------|----------------------------------------|
| 参加表明書提出数 | ２８者                                    |
| うち辞退数    | ３者                                     |
| 技術提案書提出数 | ２５者                                    |
| 二次選定参加者  | １４０２ (有)エーエーティープラスヨコミゾマコト<br>建築設計事務所   |
|          | １４０５ (株)三菱地所設計・(株)佐藤尚巳建築研究所<br>設計共同企業体 |
|          | １４１３ 小泉アトリエ・RIA・ラムサ設計共同企業体             |
|          | １４２２ (株)藤本壮介建築設計事務所                    |
|          | １４２７ 田井幹夫・佐野健太・構建築設計共同企業体              |
| 最優秀者     | １４２２ (株)藤本壮介建築設計事務所                    |
| 優秀者      | １４１３ 小泉アトリエ・RIA・ラムサ設計共同企業体             |